



乙字

養浩堂日記

明治九年十月到十二月

栗香生録

早稲田大学図書館
文書27
A66
2



聲起坐衆於如雨及如鏢

二十三日美晴

土

昨在山梅一江溪流於梅枕為多處是四山四月
之果也家我一天星來樹花之似余与性時之
浮行於食和草樹芽山中其味味味味一池一會
之陶器之運來池酒之味多

不山梅の松葉屋宿すは乳切通種も然り也
松葉屋の第一は松葉の芽并引花引梅上親漢
崎嘉前の人其法儀監上人に能く如西岳山山花
中來松葉山宿是之可謂也

浪卷之瀧湯引一海河也一軒屋あり米園子也

中より行廻り山宿り海河松葉湯引は是れ新河橋

可通車 此湯守君為其苦時嘉能一家は連
繁歌の壮大多増湯の漢時其石綴り多あり河水
枕の風色は晴あり清き空晴あり此處は物年より
晚餐も吃了何人此海河舟の之湯の湯治を舞はす

建内舎あり松葉と云ふ所の

吉井之宮殿瀧屋事あり其味味味味味味味味
之湯和伊地者わは其苦一日車を雇ひ山宿り
舞踏の性儀男の事性も評定あり酒飲りあり
舞踏の歌を打し仙居の雲舟河川に生鮭を賣りあり
在生あり松屋歸此在船也相此の海河舟の宿

自念恒庵高野温泉一泊了美濃高野并也
三回法了

青街紅丹以愛樂悅影身入小仙源華戀四舞
泉流活鷄犬人家又一村

二高野町 日

早起一浴冷湯為湯皆試む能及北海側の地國也
其後日祝而相長日光と一丸と一十の法也
其了仍身分伊地共々古井并に移轉す
古井とおぼし古河に到りて雲々前山松並國仰りて
昇る群の天竺佛の釈迦木像の前後にありて觀
て古佛ありて家事家為人住せしありと云ふ

湯野河の休は左法即下地原温泉初米陸走一
細井文平は古高野一と旅者三條山止宿せし
此處の雲々不毛の山如嶺ありて山鳥十二羽
小鳥ありて或は一里月十羽共ありと云ふ

湯野河の湯は山に山姫の来
恒庵大物に在る飲且歌十有八法之傳り雨澤は
水多味味

二十七日 雨 日曜

昨日雨多保水増加雨中山を修好多し湯山は
其佛清と云ふの 其の法は十時中人車雨を
し其者、湯野河の湯と云ふ舞にありし佛の心と云ふ

由東より山内へ車へ渡り河越陶文園を以て
 三河の決りて成る為なりと云ふに依りて河越陶文園
 小休三河の車九條上り為去りて車去りて河越陶文園
 食へて大に成りて
 税所一行の半分を以てありて成るなりと云ふ
 三河の決りて成る為なりと云ふ

地原性物

- 一 一圓三斗
- 一 一斗
- 一 二斗
- 一 四斗

下り河越三斗より成る
 中河越車上りて河越上

河越より三斗より成る
 三斗より河越三斗より成る
 三斗より下地原より成る

- 一 十斗
- 一 二十斗
- 一 五斗
- 一 六斗
- 一 七圓三斗
- 一 七斗
- 一 六斗
- 一 七圓
- 一 十斗
- 一 八斗

地原性物

河越より成る

五斗

河越より成る

河越より成る

三斗

河越より成る

七斗

十斗

河越より成る

河越より成る

音 略

例年之通好晴美之羨多し川前産地獲之賜一祥瑞
也言多し十七年前無内

聖上觀兵式より還幸、此より後お方の官お獨り存存に
局迄鑿賜御宅。園山縣層多田是年播後去訪福徳
夜青月、我お伊城の如祝願の合す、此より夜
鳴鐘は務大臣の夜會赴り、此より舞踏慶多し煙火亦
中、お方の立食之時夜會の如し辭し一時帰宅

四月 昨如た各々方より訪り御宅の如し此則返却す

出勤 三月分年俸三百圓下賜 驛迄贈書二十五圓迄
取了、此より古森より勘定地代十九圓收納先月々々慮らう

この際下水の儀三十四圓消費美より切手如し、此より
おの事ハ未當あり、事多し、此より御宅の如し此則返却す
昔時

出勤 退は青山裏系、母心前町を垣へ、此より
晩暑う堀老町の御内下水を分、此より古加と味、此より
高に年、洋食消帰、此より此則返却す

六日 曇 吉慶

吉慶有出勤、此より御菊會より親王大臣公許并より人
此園公使の首、此より此則返却す、此より御苑、此より
能止、此より此則返却す、此より御苑、此より
立食の盛儀賜ふ、此より此則返却す、此より

大山家より山鳥と料理改行の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり

又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり

又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり

又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり

又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり

十日 晴

出勤 格身修業

又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり

又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり

又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり
又其の旨を以て申渡りし事あり

書勤 子爵華族子爵授身

干坂の山田縣子爵母と子と也

午後七時より即公使招飲あり。孫承祖對儀あり。銅鐵

岩崎忠邦、植原玄圃、二月に又銅山神戸住友商店服部

敬為人多き者、其年二千方圓の銅を即ち賣り見せ、其

関係の志多し。食料は公使外陳の遠慮、永代棟、孫

遠、其料理十品外、其意心好

とあり。酒と興酒あり。其料理は其意心好

食料の餘程華族と其養生法あり

十三日晴

土曜

書勤 西馬路知事長原松園、其料理は其意心好

年改正のち、其料理は其意心好、和洋の音楽も其

由堂、其料理は其意心好、山勢松園、其料理は其

長原松園、其料理は其意心好、其料理は其意心好

其料理は其意心好、其料理は其意心好、其料理は其

其料理は其意心好、其料理は其意心好、其料理は其

其料理は其意心好、其料理は其意心好、其料理は其

其料理は其意心好、其料理は其意心好、其料理は其

其料理は其意心好、其料理は其意心好、其料理は其

其料理は其意心好、其料理は其意心好、其料理は其

其料理は其意心好、其料理は其意心好、其料理は其

其料理は其意心好、其料理は其意心好、其料理は其

穢濁をこころのまはれをうへておどろかすに於ては

十四日 晴 日曜

得能通高に不祥を舞舞りまじり金市に之を腹痛の氣味り
フラスコを愛ひ一飲

上野文相村入長子に授菊屋高の菊花二瓶一圓車錢衆の
あり上野文相村入長子に授菊屋高の菊花二瓶一圓車錢衆の
園に於てより園子地に菊人形をのりて長子に授菊屋高の
菊花二瓶一圓車錢衆の

多より破泉を濁し入流す

塔村の生あねと相とまゝの孫流をのりて
長子に授菊屋高の菊花二瓶一圓車錢衆の

十五 曇

出勤長子に授菊屋高の菊花二瓶一圓車錢衆の
園に於てより園子地に菊人形をのりて長子に授菊屋高の
菊花二瓶一圓車錢衆の

入水に菊花を束ねて授けし

十六 晴

出勤 授菊屋高の菊花二瓶一圓車錢衆の

伊物大臣の書状をのりて

退下菊屋高の書状をのりて

贈菊屋高の書状をのりて

公教我を以て義我を以て謝公賜手摺秋菊來献公莫嗔野

人寓微意此種曾向荒園栽燥時灌水濕時培待至西風搖
落日傲霜耐冷黃花開我喜我之游公門就公學子問窮淵源
願如此花發香色晚節不負栽培恩

復稅不物宅之祝每當く松方吉井之為共在掃園即
此夢社を伊地の好むあり魚鱈鳥の陳と澤り教師の舞と
供祝了快勝と畫し十石掃宅。於古為又來共立社至り
十七日晴

於南元并訪亭と恒承想貽。於古為其力を持て
北村空定と為りて
出勤 山下尾島可修樂園より元田の書經有ありて是
支那料理一人一圓半沙より十人より了り初九の時物也
る島ありと易計十舟、候りて歸來

十日雨夜風雨甚

室内有物無事しとて能く寒雨遠く白雪より
べし清女中雨靴し一周忌の年より多楽一圓半
車夫と古畑廻り吹口の北村共立社へ成在也
雪く古畑より云りて月夜に書きし以て之歎來
と紅阿

と云く、皇太后築地、曲馬の院、海風雨、為六日
夜雨多し、海雨濕海地北風強

十日晴
室内有出勤しとて寒氣多し初寒と云ふ
近山と海雪多し退り西風三つと多し春は佳

米得十石
伊吉大阿
海地根籠
と云し

山にてもう一人、漢の行状を即ち事性として、
物産、産望、遊中、史考、便知、漢、孝井、自、為、其、意、
田、何、程、と、即、後、と、傳、り、方、を、此、日、の、心、理、州、の、心、身、
者、後、者、性、也、と、格、の、心、之、如、何、と、抄、伊、能、井、と、
あり、と、云、ふ、

五、加、北、村、共、之、園、社、株、主、書、始、政、所、之、行、才、智、も、
少、心、事、一、と、云、ふ、吉、井、に、下、條、の、世、知、事、之、身、が、居、不、赴、
也、と、云、ふ、格、第、地、曲、馬、 望、天、池、の、隱、居、心、也、と、云、ふ、
可、説、也、人、学、習、院、生、性、也、連、入、り、身、之、心、の、實、繁、
疎、甚、十、寸、竹、宅、山、山、雪、多、く、し、

二十日 土

出、勤、退、下、姓、高、者、之、法、也、剛、河、

二十日 日曜

情、晴、見、大、八、瑞、雪、并、菊、花、之、詩、也、剛、河、
羊、刺、十、竹、社、在、乃、根、之、意、の、始、也、此、一、出、り、松、林、可、
謂、凡、福、海、也、而、亦、此、第、一、也、若、稻、高、稻、近、期、程、に、此、也、也、
以、此、名、為、者、と、謂、能、一、切、王、歸、也、若、若、者、と、云、ふ、山、同、但、母、と、
幹、子、と、云、ふ、人、と、野、人、也、房、一、種、也、と、云、ふ、法、也、并、以、此、名、を、以、て、有、
此、也、也、由、故、茶、菜、之、流、と、云、ふ、者、也、若、井、税、而、以、此、名、を、以、て、高、也、
五、六、西、村、松、竹、梅、并、此、也、也、此、因、梅、并、松、竹、也、也、不、覺、
從、死、困、仁、風、南、能、登、親、也、小、休、何、道、福、會、と、云、ふ、者、也、
小、休、在、因、梅、松、竹、并、此、也、也、一、見、此、也、之、法、也、知、事、之、始、也、也、

皇上皇后皆居長湫水基殿中於十月十日以後
日海軍密接雷鳴兼降大雨亦欲以雨而為
冷平之長湫水雨密院法事亦以此性中
良運之官不為千總之官
此節長湫水基殿初之何ヤラ陸水結到殿不和之極
也之官不為海陸軍據作氣之何ヤラ
二十七日 壬午
出勤 如所定者五日之吉井日付給事有賞
當權政事之官心實事之柳楊林田原以觀
敬步御宅

二十日 日曜

青井の穂水屋切考(午時合筆) 外風氣亦南極
酌膳取身全行後海身一法物運秘所新考
種神考(成)ニ燒之指南ニ多行

二十九日 寒雨

出勤 出仕申娘取肺病之海以初死之報
あり良之湯島考之海み多道
帰途とあり

三十日

出勤 五下香煎料立花之為三圓之賜
伊知大臣討馬之分之為方山古臣以知浪連
明極原考之西原

夜長以宅觀菊會あり吉井王條伊地知等下條
來の新物と發成之氣木高崎三島と氣成り多
仁禮ヤ將の勢

十二月十日

昨夜大醉者有且覺たれり幸分新物と云い伊地知山向
三大臣迄前指所防者初り其小多條限筆船と云り事
經一見新子のありて代價百三す前田計と云
田中光政仁記筆就て道田中と云り今既の世に改りて
凡所儀事均東京發物と云い發物と云物と發物と云物
吉野の條より菊元と云い發物と云物と七たうの條
印し

若下りて發物。多氣部氣氣と云い發物
夜青井の氏神發りて發物。統本月と云い發物

言成實

以表の事も赤坂の木多り言新中燒失たれ此風
又宣然と云い發物

出勤の氣天機の發りて山と云い發物
森折次と云い發物

三日

出勤手袋の青山と云い發物
三條の邊に發りて
早園の氣成りて木と云い發物
孝島福同長回井上發りて山と云い發物

國傳法寺古方僧社

唱

出勤 退翁山養系掃陳政世之解 祀之其の
明之威院傳七年迄多。上泉源社在東海邊
上殿之旨多表院附 在長以系實利之世
財長備具者送具之實佛中と等五七

書

日曜

亡威曜院殿七年孝法子多等身多佛壇
亡上殿法名之饒日正而位附院号掛物之抄
香花菓子木の備三時存願寺修治三人木
一志山草鋪 一人 香案

一書

一人

一書

一人

一書

三人

百時

出勤 退下元國儀議尚書會の事は可成樂國行
島友とて白濟む事あり即料理を食し去月日行傳
十日晴

土

朔松乃月用事あり事不立宅内進吉因法成之訪
均事年改勝好之訪多事千部あり 本年もさうハ
功也しらすの民の電のたむうう出まは

吉田と訪する物あり。シ燒器概と實心磁器あり物

吉田の物

十九日晴

午前吉井家へ到り午食 税亦伊地坊事居り去り内事
中進買物白銅爐の四回を錢宣徳一茶瓶掛六回

購求晩天より伊地坊へ會事其甚也百尺の以難飲

或四人の忘年會あり内進恒庵とい候也

二十日晴

出勤 老者不掛より退下り中進の物購求之物

三品と持糸内進亞細亞協會別會あり而うと西一昨年

に新年會を議しあり清新身以候也

二十一日晴

出勤 内進目下我族は長女清の伴中、妻を喪ひ

於東京等葬ししより子希間淑部は在るのみ也云

弟間。使木常殿候より訪物あり等昔恨日意ありは唯

に皆儀あり森、三島殿前より訪あり

長春川の事、晩食時、十字魚と鮎魚

二十二日

出勤、近二日の、訪世に在

四時、高崎、分事官堂、刻子、来、洋館、林、録、事、
是作、の、完、七、あり、し、を、致、書、一、祝、也、松、方、ま、の、三、節、ま、好、
吉、并、祝、不、伊、地、刻、と、指、松、方、の、兄、久、保、八、節、事、居、了、盛、
安、多、指、收、四、節、事、本、歌、初、十、時、と、候、

二十三日

出勤、伊弉大臣、逢、押、事、を、物、進、と、候、事、お、不、立、有、候、

行、と、申、う

若明天皇四年、二十二年、奉、古、執、行、身、西、東、行、事、し、と、候、

伊弉、事

二十四日

出勤、長、の、書、收、り、指、了、夜、長、政、事、急、急、見、舞、事、本、

伊弉、刻、事、申、う、大、鯛、賜、事、

松、方、大、臣、う、表、送、書、和、記、の、事、本、細、説、感、佩、事、本、

二十日

出勤、如、指、候、事

午後、退、下、夜、古、御、事、
吉、并、の、指、事、不、快、と、事、本、山、本、

と、申、の、計、治、り、候、事

二十一日

家計、調理、伊弉、事、候、事、大、指、在、事、本、と、申、候、事、

二十日

出勤、伊弉、事、候、事、大、指、在、事、本、と、申、候、事、

相誤あり。晩方木挽所海氷決とあり

大八師匠法入陳歩階内國守白銅爐。龜金控二儀別
上賜大八二年正月とありと一月平禮世儀とあり

二十七日 晴 於雲見也

於井上穀入末古即後也

出勤。中川雪堂、書業亡人雪堂以後と生後詩

死考年有報真、儲老の契とありあり歟

二十八日

出勤。今川仁舞——長尾歌伸、澁脇信敏とあり

家産浪費あり、一系をとり、以、陽安とあり、今、後

却、城、の、地、共、管、成、り、以、後、謹、慎、と、あり、あり、あり





